

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (25)



～ 「吉原小学校」を「吉原笑楽校」へ ～

石垣市立吉原小学校 校長 大浜 公三枝

吉原小学校は、北には東シナ海、南には於茂登連山を望む風光明媚な学校です。全校児童 12 名全て男の子で、兄弟のように仲良く過ごしています。

今年の夏休み、職員ワークショップでは「『吉原小学校』を『吉原笑楽校』へ」するために、「SWOT 分析」に挑戦しました。「SWOT 分析」とは、学校の内外環境のうち、外部環境の要因を「機会(Opportunity)」と「脅威(Threat)」に分類し、内部状況を「強み(Strength)」と「弱み(Weakness)」に整理した上で、「機会(Opportunity)」と「強み(Strength)」を中心に把握・分析し、特色ある活動を生み出す手法です。多様な視点からの意見を得るために、教諭だけではなく調理員や用務員など、子どもに関わる全ての学校職員が参加しました。

すると、「おしゃべりの延長みたいで話しやすかった」「自校の「機会(Opportunity)」と「強み(Strength)」に注目して振り返ることで、職員の自己肯定感もアップした」等、嬉しい感想が聞かれました。子どもに関わる職員の自己肯定感が高くなれば、子ども達の自己肯定感が高まることまちがいないです。「先生」とは、「先ず(まず)、生き活き(生き生き)する人」と、ある人が言っていました。

以下、「SWOT」で分析した吉原小学校の強みをご紹介します。

### 【強み1 地域の協力】

1953年(昭和28年)6月12日に宮古島から琉球政府の計画移民として入植し、現在の吉原集落を開拓してきました。山原、仲筋、大嵩集落と合わせて吉原小学校校区を構成しています。開拓1世の高齢化が進んでいますが、地域住民が学校への「地域と共に」という大きな思いを感じます。

吉原公民館主催の浜下り、入植祭、そして学校・保護者・地域が一丸となって開催する運動会は吉原っ子も楽しみにしています。昨年・今年はコロナ禍のため入植祭は中止、しかし、代わりに児童に紅白まんじゅうの寄贈がありました。また、運動会も同居家族のみの参加ということで、縮小を余儀なくされていますが、運動会会場設営には地域の方も応援に駆けつけてくださり、大変心強かったです。

また、吉原地域には教育資源(ヒト、モノ、コト)が大変豊富です。昨年度の学習発表会では、3,4年生が仲松公民館長のキビ畑で体験学習をさせていただいたことをまとめて発表したり、5,6年生が狩俣商店のおばあちゃんにインタビューをして「狩俣のオーバー物語」を劇化したりと大変好評でした。

さらに、年に2回、吉原っ子は、公民館・地域清掃を行います。地域とのつながりは、自分が育っている地域への理解につながり、郷土を愛する心を育んでくれます。また、地域のために役立つことで、所属感が高まります。

### 【強み2 保護者の支え】

吉原校区は、近年、県外からの移住者が増え、本校児童12名(11世帯)の保護者のほとんどが県外出身者です。今、まさに新学習指導要領で求められている「多様な価値観」を互いに認め、「子ども達のために」を合い言葉に、抜群の企画力・行動力でPTA活動を謳歌しています。今年度は、「PTA冬レク」として「竹山(通称)登山」を実施するために、事前に何回かPTAが登山をし、ルート確保をしてくれました。また、「通学路の安全点検」では、実際に現地踏査して見事なレポートを作成してく

れました。そのレポートは、石P連、校長会に陳情する際に活用させていただきました。

保護者の活動は、子ども達に安心感を与え、一人一人がかけがえのない存在であることに気づくことにつながります。

### 【強み3 職員のチームワーク】

吉原小学校の職員は、全員で10名です。職員室では、いつも子供たちの話で盛り上がります。平均年齢は46.8歳、全国学習状況調査で上位を取めている秋田県教師集団に負けないくらいの熟年集団です。そして、本校職員の1番の自慢は、「チームワークの良さ」です。「観察」と「傾聴と共感」、「Q-Uアンケート調査」等による「確かな児童理解」に基づいて、児童の「よさ」や「可能性」に気づき、価値づけられる職員集団を目指しています。

「地域」「保護者」「学校」は子育ての同志です。吉原小学校の強みを活かして、「I am O.K」「You are O.K」「We are O.K」な「吉原笑楽校」を創っていきましょう。



職員ワークショップ



昨年度の運動会 PTA 種目